

再発足の 原点に帰り共に前進を

愛媛県神道青年会々長 清家 貞宏

若竹

第14号

昭和59年3月31日

発行

●790 松山市道後
桜谷町173
愛媛県 神社庁内
愛媛県神道青年会
0899-21-9875



一年前の三月二十三日愛媛県神社
庁にて開催された愛媛県神道青年会
定時総会に於いて、図らずも会長に
推挙されましたことは誠に身に余る
光栄でありますと共に、不肖私、も
とより浅学非才で、とても会長とい
う器でないことは重々承知いたして
おりますが、会員諸兄のご指導ご鞭
撻によりまして使命達成のため微力
を尽したいと存じております。
さて、顧りみますれば、昭和四十
七年八月に故和田将信初代会長を中
心に再発足以来、十亀興美前会長、

長曾我部延昭前会長と年々に神青会
の活動も活発になり、去る昭和五十
六年には神道青年全国協議会主催の
中央研修会を松山にて開催し、全国
の同志を迎え入れるまでに成長発展
してきたのも、前執行部の方々の惜
しみない努力と会員諸兄の一致団結
協力によるものであります。過去
十年間の活動にはそれなりの意義も
あり、多大なる成果もみました。昨
年九月には未熟ながらも、雅楽・舞
を一般崇敬者向けに教化活動の一端
として「観月神楽の夕」を開催出来
たのも十年間の集大成であり、また
新しい一歩であると信じます。
しかし、再発足当時の会員も会則
変更に伴ない四十歳を過ぎられ退会
された今、残された現在の会員によ
る活動の基本理念は、やはり再発足
当時の原点に帰り、「我々は今何を
すべきか」を各会員が自覚をし、積
極的に活動に参加していただかなけ
ればならないと思うのです。各会員
それぞれが会長になった気持で若輩
の私と共に前進していこうではあり
ませんか。
現在県下でも護国神社の玉串料問
題が第八回公判を数え、また伊予市
の忠霊塔裁判が初公判を迎えるなど、
全国的（特に保守の強いところ）に
政数分離の問題で種々の裁判が進行

中でありますが、伝統に基づく儀式
をささえる我ら神主が弱腰にならず
あくまでも日本の伝統を守るのは自
分達以外にはないのだという自覚を
持たねばなりません。あらゆる諸問
題に若さと情熱を持って邁進したい
ものです。

そういう点で、東予では十六夜会
中予では二十日会、松籬会、南予で
は神会と各ブロック毎に自己研修も
行なわれていますが、これらの活動
はあくまでも神青会の一活動であり、
単立のものでなく関連性を持って、
それぞれのブロック活動がバラバラ
にならぬ様に注意していきたいと思
いますので、各会員のご協力をお願
い申し上げます。

尚本年は神青協創立三十五周年を
迎えて、三月二十八・九日高松に於
て四国ブロックキャンペーンを、六
月二十二・三日明治記念館に於て記
念大会を実施しますので、一人でも
多くの会員に参加していただき、神
道青年会の存在意義を知ろうではあ
りませんか。



昭和五十六年四月から五十八年三月の二ケ年間、日本語教育派遣教員として私の外四名の国語教員が中国に派遣された。赴任先は、北京、濟南、上海、広州であり、私は広州外国語大学であった。

四月十日、五人そろって松山空港を出発するにあたり、県教育委員会は空港ロビーで盛大な激励会を開いてくださった。

「いかなることがあっても、常に日本人であることを忘れず、主体性をもって大任にあたって下さい」との教育長の訓示を念頭に置き胸に入れ、万歳三唱に送られて、我々は後顧の憂なく桜咲く故郷を飛び立った。

大阪で出国手続をして昼食。この時、私はつぶやいた「これが日本食のたべ納めかも知れん、大任を受けて外国に行くからには、命を懸けてゆかねばならん」と、他の先生方も異口同音であった。

上海空港に無事着陸「さあ着いた」「頑張ろう」と我々五名それぞれの任地へとむかう。「元気でな」惜別の情を語る暇もなく、北へ南へと赴任の途についた。

「我が壮志盛ん、軍人は戦場で死すを勲とし、教員は教域で倒れるを誉

とす、大命下る、重任いかに果すべき、信念と誇りを持って日本師道を具現せむ、愛媛教師の我はゆく」機上から眼下の大陸を見ながら、強烈な日本人意識が今まで以上に湧くの覚えた。「雄心勃々」というのであろう。

黄昏、広州空港に安着、亜熱帯地方だけに少し暑い。街には校樹、馬尾松、千層樹、が高く伸び茂り、羊蹄花(広東桜)木棉花が咲き、いかにも南国らしい趣を漂わせている。外人教員の宿舎は大学の中にある、鉄筋四階建であり、私は二階の

の出るシャワーは、外人専用食堂横の外人専用共同シャワー室にあるだけであった。冬のない広州といっても、やはり汗は湯で洗い落したい。しかし、我々日本人は上から雨の如く湯を浴びるよりも、腰から温まる湯舟がほしい。そこで大タライを買ってきて、ガスで湯を沸かし隔日自室で行水をしていた。

食事は広州料理店で味付した肉か川魚と野菜が二皿で、飯は俗にいう「支那米」でおいしくないが食べ放題であった。書齋の本立の上に小さなボール箱

中国回想記 1

護国神社御称宜 上森 一義

3DKが割りあてられていた。入ってみると、すべて洋式であり、応接間、書齋、寝室、洗面、シャワー、トイレ、炊事場。家具も調度品もすべてそろっていて不便ではないが、シャワーは湯が出ないのである。湯

に白紙をはり、その上に神宮大麻と左右に靖国神社、護国神社の神札を奉安。壁面には皇室御一家新春の御写真を台紙ごと貼り、その下に日本のカレンダーをつるしておいた。これらを来室する中国人教師や学生が

見て一種の驚きを示す。そして色々質問をする。そのたびに正しい日本人の精神生活を説明してあげた。彼等は異口同音に日本人の本当の姿を知ったと語って喜んでいった。ある日、学生が「先生、中国の現状と吾々の姿を見てどう思いますか」というので、次のような主旨のことを話した。

「将来の中国は君達がリードするだろうが、そのためには、今の現状から許される範囲で広く情報を集め、国際潮流に逆行しないように心がけておくべきだ。井戸の蛙や池の鯉などは限定された水面と深さが世界だと思っているから、大海を見て驚き惑う。君達も特定の思想や主義が絶対だと信奉していると大海の逆行雑魚になる。相手の生き方を認めつつ自己修正に努力しなければならぬ。例えば資本主義と聞いただけで罪悪感を持ち、自由民主主義を敵視するようなことは愚の骨頂なのだ。ほんの数年前、中国に逆行雑魚の四人組がいたが、彼等を追い落したのには人民の英知だろう。特に外国語を学ぶ君達は、外国人と第一線で接することを任務とされている。だから、君達の言動が中国の将来を左右すると

いっても過言ではない。卒業後はコスモポリタンとなることを、同種同根のアジア人として切望する」というものであった。

九月のある日、例の教科書問題で、予想どおり、当局に命ぜられたベテラン通訳殿がやってきた。日く「日本の文部省の態度について、先生個人としての御意見を聞かせ下さい。」という。私は「個人も公もない、私は日本国民です。祖国の省庁を甲だ乙だと批判などしない。良い悪いも

ない。文部省の見解は即私の見解です。他家の座敷で我が家の悪口を言う奴は人間じゃない。」この論法で押し通した。数日後、通訳殿が「先生は近頃稀な日本人らしい日本人と幹部が高く評価しています。」という。こういう評価か知らないが、別に事もなく、教師や学生が、きわめて友好的に本音で話しかけてくるようになった。

つくづく思ったことは、国際社会においては日本国内のような無責任

発言や、事なかれ主義、御都合主義、耳ざわりのよい中立的な聞こえのよい虚偽の建て前論は通用しないということである。

日本国民として主体性のある態度を保持し祖国愛にもえ、人類の共存共栄を希求する国際人でなければ、「偽日本人」と評価されることである。

授業のこと、旅行見聞のことなどは紙面の都合で、次号に書きたいと思えます。

● 神道青年全国協議会

京都中央研修会報告

彦 照 奏

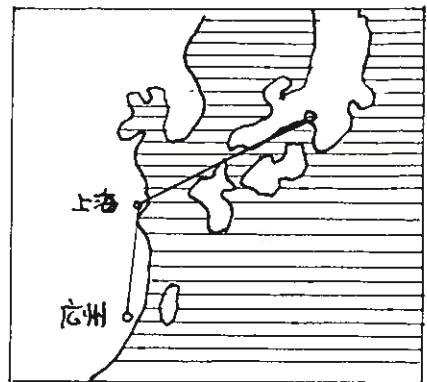
恒例の神青協中央研修会が、歴史と文化の町、京都に於いて二月二十一・二十二日の両日に亘って開催された。全国より三六〇余名の青年神職が一堂に集い「まつり」をテーマに、熱心な討議に花を咲かせ、意義深く盛大な研修会となった。

晴天に恵まれた初日、愛媛県よりは清家貞宏会長・長曾我部延昭元会長・湊昭彦理事の三名が出席。午後

一時よりの開会式に臨んだ。まず初めに大会開会の辞が述べられ、続いて神宮遙拜、国家斉唱、会長挨拶、来賓祝辞と進み開会式を終えて、次に基調講演となった。基調講演の講師には京都大学教授・米山俊直先生に「二十一世紀のまつり」と題して講演を戴いた。先生は、文化人類学の権威で、三重大学を卒業後、京都大学大学院にて農林経済学を専攻。

その後アメリカ、イリノイ大学に留学され文化人類学を専攻された。帰国後は、関西の主要大学の助教授・講師も歴任され現在に至る。主な著書に「祇園祭」「天神祭」「文化人類学の考え方」「日本のむらの百年」「日本人の仲間意識」等多数である。先生の講演は一時半に亘って行われたが、その中で二十一世紀に至る社会情勢を分析するなかで、伊勢神宮の変革はなく歴然と現在の状況を維持し続ける。又、基本的な人間関係の変化もみられない。しかし、核戦争の恐怖・人口問題・食料問題・公害問題等、我々が憂慮しなければならぬ問題は山積している事を先ず冒頭に述べられ、次に「まつりの

社会性」にふれられ、日本の稲作農耕社会の場合、季節の循環に照らした稲の成長過程のふしめに祭が行われ、祖先観や神道的世界観がたくみに相乗的価値を付加していた。又、祭は欲求充足の原動力ともなる。我々は日頃複雑な社会情勢の中での生活を余儀なくされ、日常的なリズムではもはや制御できない漠然とした焦燥感や不安感が、一時的な日常生活からの離脱を要求している。この体制社会による民衆の抑圧されたエネルギーは、常に蓄積されて爆発する。これは単調と孤独と欲求不満からの解放である。人々は非日常的な場・すなわち祭のエネルギーの爆発を通じて一種の解放を得て民衆が深



くかかわった事の要因を説明され、次に「祭と行政」に関して、「祇園祭」と「神戸まつり」を例に比較がなされた。「祇園祭」は、八坂神社の中心的祭として、氏子の世話役が関与し、神社と共に運営する民衆の祭であった物が、現在に至っては神社の諸祭祀と山鉾巡行とに大きくわかれ、行政の動きが深くかかわっている。そこには観光行事・観光客誘致対策の一環として、行政が関与し、祭の実行委員会組織に対して、補助金を与えて後援しているのが現状である。行政の関与は、山鉾巡行と言う祇園祭の中のメインイベントに関する処のみに行われ、文化財保護や巡行に当っての観光行政の名目で、祇園祭協賛会や山鉾連合会といった民間団体への補助金として出しており、神社側のまつりには何も係っていない点があげられる。

おり、本部を市役所内に設置され、大半の事務処理は役所によって行われる。行事は、市民祭協会主催行事として、「中央行事」「区行事」があり、各協賛団体が主催する「協賛行事」に区分される。内容は、各コンテス・アトラクション・音楽祭・パレード・ヨットレース・芸能奉納などで、市民文化祭という彩りの催し物で目白押しである。「神戸まつり」は市民祭協会と言う民間団体が主催しているが、実質は行政指導型まつりといえる。しかし、ここで興味をひくのは、「区行事」や「みなと祭」の中には、プログラムには記載されていない神事が、神職によって奉仕されており、市民の自由意志に基づいて執行されているところである。

祇園祭とは逆に、行政によって創造された「まつり」の形態が、「神戸まつり」である。神戸まつりは昭和四十六年から始められた「まつり」であり、フェスティバルに近い。これは市民祭協会という実行委員会組織によって、企画運営されている。市民祭協会は、知事をはじめとして関係係八名、市長以下十名、民間団体十三名、文化人四名でつくられて

一切関係はないが、そのコースを見ると、生田神社から湊川神社に渡るものであり、神輿渡御の形式をとっており、みなと祭においては真剣の奉納神事も行われ、何か神自体が深く潜行しながら、息づいていることがわかり「祇園祭」とは対照的に「まつり」が執行されている点を強調され、これから先の「まつり」の形態のあり方を問われて論旨をしめくられた。

次に分科会に移り「まつり感性6」と題された、六分科会に分かれて行われた。第一の分科会は「まつりのデザイン」と題され、次に「まつりの心模様」「まつりの固有性と国際性」「まつりの波及効果」「まつりと行政」「新しいまつりの創造」と六科題とし、祭を慣習的な無味無臭の行事として、行っていないかを反省し、多角的に分析し、我々の課題を明確にして、明日への指針とする為、建設的意見が各分科会に於いて飛びかった。

明けて二十二日、午前八時、バスで会場の国際会館に移り、九時よりパネルドスカッションが行われ、前日の分科会の要旨を座長が報告し、それを受けて、多角的な討議がなされ、諸問題を内包しながらも一応の結論づけを、アドバイザーの米山先生に戴き終了した。閉会式に当たり、修了証の授与が行われ、続いて、田中恒清会長が挨拶に立ち、神青協の問題提起とこれからの行事の推進に努力して行く事を目標に、会員の協力和と団結を呼びかけた。次に、次期開催の島根県代表による挨拶がなされ、来年の参加を呼びかけた。次に神青会の歌唱和につづき、天皇の御栄と神青協の隆昌を祈り万歳を三唱し閉会した。

次に会場を宿舍の京都ホテルに移し、午後六時半より懇談会に移り、盟友と酒を酌み交わし、京都の夜を満喫しながら、三三五五、ネオンの光の中に消えていった。

お願い!!

青年神職年会費は四〇〇〇円になっておりますので、未納の方は至急で納付願います。会費は会運営の基本となるものですのでよろしく御協力
の程お願い申し上げます。



昭和57年度 歳入歳出決算書

歳入合計金 1,557,877円
歳出合計金 1,289,130円
差引残高金 268,747円(次年度へ繰越)

歳入の部

Table with 5 columns: 項目, 本年度決算, 本年度予算, 比増減, 附記. Rows include 会費収入, 助成金, 寄附金, 雑収入, 繰越金.

歳出の部

Table with 5 columns: 項目, 本年度決算, 本年度予算, 比増減, 附記. Rows include 会議費, 研修教化費, 事業費, 調査費, 広報費, 事務費, 備品費, 旅費, 慶弔費, 負担金, 雑費, 予備費.

別途積立金報告
定額貯金 600,000円
普通貯金 304,941円
合計 904,941円

上記各項監査の結果相違なき事を認めます

監事 本多 洋介
監事 日野 諒二

昭和58年度活動報告

4月26日
役員会(神社庁)

清家、矢野、重松、池内、佐藤、
浅海、柳原、玉井、湊、井上(忠)

長曾我部、本多

5月10日

役員会(神青協・東京)

5月12日

四国合同研修会打合せ(高松)

6月8日

役員会(神社庁)

清家、矢野、重松、池内、長曾我部、浅海、本多

7月19日

役員会(神青協・京都)

8月6・7日

四国四県神青・氏青合同研修会(高松) 出席者8名

清家、重松、池内、矢野、長曾我部、井上、湊、本多

8月30日

役員会(宇和島・三島神社)

出席者8名

清家、矢野、重松、池内、都子野、湊、大野、越智、本多

9月8・9日

四国地区神青錬成会参加(高知)

出席者4名

清家、湊、福本、佐藤

9月21・22日

役員研修会(神青協・仙台)

9月25日

観月神楽の夕(椿神社)

清家、長曾我部、矢野、重松、堀、都子野、田崎、浅海、池内、玉井、別府、鴨頭、田窪、柳原、相原、大野、越智、三瀬、楠部、坐子四名、柳川(高知県)

10月11日

35周年神青協役員会(東京)

10月30日

役員会、初詣ポスター配送(護国神社) 出席者7名

清家、長曾我部、矢野、池内、堀、浅海、本多

11月21日

役員会(神青協・東京)

役員会(神青協・東京)

役員会(神青協・東京)

役員会(神青協・東京)

役員会(神青協・東京)

役員会(神青協・東京)

昭和58年度 予 算 (案)

歳入の部

項 目	本年度予算	前年度予算	比 較		附 記
			増	減	
1 会費収入	300,000	280,000	20,000		
2 助成金	250,000	230,000	20,000		神社庁助成金15万,時局対策費5万,四国四県神社関係者大会助勢手当5万
3 寄附金	400,000	320,000	80,000		
4 雑収入	11,253	14,263		3,010	三島由紀夫慰霊祭奉仕料他
5 繰越金	268,747	245,737	23,010		
合 計	1,230,000	1,090,000	140,000		

歳出の部

項 目	本年度予算	前年度予算	比 較		附 記
			増	減	
1 会議費	250,000	110,000	140,000		
2 研修教化費	100,000	150,000		50,000	三ブロック助成金3万 研修会・旅行他
3 事業費	200,000	200,000			初詣ポスター印刷費16万他
4 調査費	0	10,000		10,000	
5 広報費	180,000	170,000	10,000		若竹発行費
6 事務費	80,000	80,000			
7 備品費	10,000	10,000			
8 旅 費	250,000	200,000	50,000		総会・中央研修会参加旅費 3万他
9 慶弔費	20,000	20,000			
10 負担金	120,000	120,000			
11 雑支出	5,000	5,000			
12 予備費	15,000	15,000			
合 計	1,230,000	1,090,000	140,000		

歳入合計 1,230,000 円

歳出合計 1,230,000 円

昭和58年3月23日

愛媛県神道青年会会長 長曾我部 延 昭

11月23日

三島由紀夫慰霊祭奉仕

(椿神社) 6名

11月28日

四国ブロック連絡会(徳島県池田)

出席者4名

清家、重松、矢野、本多

12月8日

東予ブロック忘年会(今治)

12月10日

南予ブロック忘年会(八幡浜)

昭和59年

1月21日

役員会(神青協・新居浜)

清家、長曾我部、重松、佐藤、湊、

池内、柳原、浅海、榊田、本多、

田窪

1月21日 新年互礼会(新居浜)

出席者17名

1月24日

東海ブロックキャンペーン(神青協

・東京)

2月20日

役員会(神青協・東京)

2月21・22日

神青協中央研修会(京都)

出席者3名

清家、長曾我部、湊

3月28・29日

四国ブロックキャンペーン野球大会

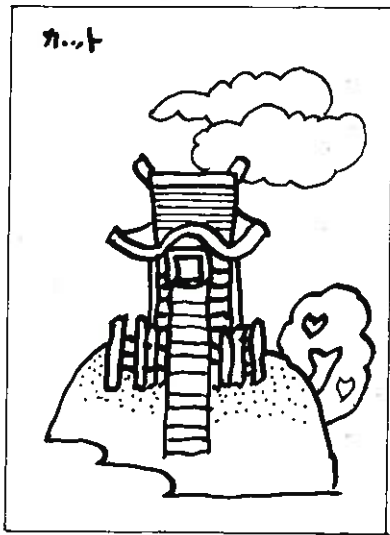
(高松)

●寄附助成者御芳名

昭和57年度

盛八幡大神社	明日八幡神社	宇都宮神社	榑本神社	波賀部神社	三島神社	綾延神社	阿沼美神社	姫坂神社	金老万円也	玉生八幡神社	金貳万円也	一宮神社	金参万円也	和霊神社	石鏡神社	神社	伊予豆比古命神社	金拾万円也	金五万円也	伊予豆比古命神社	長曾我部	勝							
高橋義忠殿	川崎弘美殿	河田誠章殿	石川梅蔵殿	武智圭幸殿	福永久幸殿	豊田栄年殿	田内逸和殿	沼崎嘉吉殿	神社庁宇和海支部	平田茂光殿	神社庁宇和海支部	矢野国男殿	神社庁宇和海支部	三輪元亮殿	近藤茂生殿	阿部廉夫殿	長曾我部	勝	長曾我部	勝	勝	勝							
三島神社	橋新宮神社	宮内神社	高家八幡神社	伊曾能神社	八坂神社	三島大明神社	高鴨神社	弓削神社	土居神社	金五千円也	天満神社	高繩神社	石鏡神社	加茂神社	大宮八幡神社	八幡神社	八幡神社	三嶋大明神社	滝島神社	巖島神社	白山神社	桑原八幡神社	護国神社	村山神社					
菅原醇殿	高橋三郎殿	真鍋政子殿	都市野政子殿	武市重勉殿	阿部重満殿	杉野種親殿	鴨野重元殿	神社庁西宇和支部	宮原浄人殿	矢野文雄殿	神社庁大三島支部	武智成彬殿	正岡重慶殿	池内克水殿	神社庁八幡浜支部	和氣須賀雄殿	清家貞雄殿	吉岡太郎殿	武智正一殿	新藤正一殿	柳原磐根殿	大岡益子殿	石丸金五殿	正岡定幸殿	神田三雄殿	神社町久万支部	神社小田支部	神社松山支部	神社小田支部
春日神社	福水神社	岡森神社	橋八幡大神社	湯嶋天神社	賀茂別雷神社	八幡神社	白王神社	当田八幡神社	勝岡八幡神社	金四千円也	三島神社	賀茂神社	浜出稻荷神社	伊予稻荷神社	今宮神社	金刀比羅神社	三島神社	三奈良神社	滝島神社	三島神社	玉生八幡大神社	石工神社	奥坂神社	惠依祢二名神社	宗像神社	出像神社	客海神社	石清水八幡神社	
名本勅滋殿	高市マサミ殿	寺谷正徳殿	馬越政応殿	菊池博恭殿	波頭倭文子殿	是沢美久雄殿	薬師守直殿	額田重則殿	武智雄三殿	峯本保雄殿	上田源一殿	星野暢広殿	星野満広殿	佐藤伊都男殿	山下幸伸殿	吉田充敏殿	森部正史殿	渡部久夫殿	能田隆三殿	武智ノ三殿	長本ノク殿	宮本慶久殿	高市久良殿	合田正一郎殿	鎌田正一殿	鎌田正一殿	芥川利夫殿		

昭和58年度



カ...

金五万円
和 靈 神社

三輪田 元 亮 殿

金貳万円
一宮 神社

神社庁宇和山支部 殿
神社庁大洲支部 殿
矢野 国 男 殿

玉生八幡神社
滝 神 社
姫坂 神 社

神社庁喜多郡支部 殿
平 田 茂 光 殿
新 藤 正 一 殿
沼 崎 嘉 吉 殿

金壹万円
吹揚 神 社

田 窪 多理甫 殿
神社庁小田支部 殿

五千円

大宮八幡神社
高家八幡神社
橋新宮神社
橋八幡神社
石清水八幡神社
井田八幡神社
朝日八幡神社
三島 神 社
今宮 神 社
金刀比羅神社

綾 延 神 社
八 幡 神 社
天 満 宮
三嶋大明神社
明日八幡神社
伊予稲荷神社
八 幡 神 社
村 山 神 社
三 島 神 社
三 島 神 社
三 島 神 社
三 島 神 社
八 幡 神 社
南予護国神社
巖 島 神 社

神社庁西条支部 殿
和 氣 須賀雄 殿
都 子 野 政 子 殿
高 橋 三 郎 殿
馬 越 正 応 殿
芥 川 利 夫 殿
藤 原 岳 始 殿
田 内 一 嘉 殿
峯 本 保 雄 殿
佐 藤 伊 都 男 殿
山 下 幸 伸 殿

神社庁南宇和支部 殿
神社庁宇和山支部 殿
神社庁久万支部 殿
神社町八幡浜支部 殿
豊 田 栄 年 殿
大 宮 四 郎 殿
小 池 稜 威 殿
武 智 勲 殿
川 崎 弘 美 殿
星 野 暢 廣 殿
清 家 貞 雄 殿
神 田 三 雄 殿
能 田 隆 三 殿
松 浦 文 郎 殿
越 智 大 介 殿
馬 越 鶴 敏 殿
渡 部 正 讓 殿
前 田 讓 殿
柳 原 磐 根 殿

編集後記



※ 今度、中国より帰国されました上森一義様、貴重な体験記有難うございました。紙面を借りて御礼申し上げます。
※ 会報十四号発刊が遅れました事をお詫びいたします。

鹿 島 神 社
恵依祢二名神社
助成金
拾万円
時局対策費
五万円
新年互礼会お祝金
老万円
五千元
愛媛県神社庁 殿
愛媛県神社庁 殿
愛媛県神社庁 殿
菊池克幸 殿
高市慶久 殿
矢野国男 殿
十亀興美 殿